

TOEICスコアアップを目標とした大学初年度における 英語e-learning教材の活用事例

—未修了者に注目して—

原 めぐみ

An Example of Using English E-learning Material for the First Year University
Students to Improve TOEIC Scores
-Focus on Students Who Failed to Complete Requirements-

Megumi Hara

1. はじめに

本学では2019年度から総持寺キャンパスが開設され、国際教養学科の学生は全ての授業を新キャンパスの総持寺キャンパスで履修することができるようになった。それに伴い、2019年度入学生からは、BYOD（Bring Your Own Device）がスタートし、学生が各自所有するパソコンを使用し、授業に参加することが求められるようになった。

BYODが始まり、学生がオンライン教材にアクセスすることが容易になったことを契機に、国際教養学科では授業外英語学習充実のため2種類のe-learning教材を導入することとなった。1,2年生全員に、国際教養基礎知識を学ぶためのコンテンツ型e-learning英語教材として株式会社チエル社の「ABLish」と、TOEICスコアアップや英語スキルアップを目指すe-learning英語教材としてリアリーイングリッシュ株式会社のTOEICテスト対応教材「総合英語コース7（Practical English 7）」（以下リアリーイングリッシュ）を導入することになった。

2. 問題と目的

国際教養学科では1年次の英語必修科目として春学期に「Reading 1」、「Writing 1」、TOEIC に特化した「English for Qualification 1」とコミュニケーションに特化した「English for Conversation 1」という科目が配置されており、秋学期も同様にこの4科目が展開されている。秋学期を終えた国際教養学科の学生は、2月から3月にフィリピンあるいはオーストラリアに2週間から5週間の期間全員短期留学することになっている。この短期留学に出発するまでにいかに英語力をつけるかということが、2017年に開始した新カリキュラムの課題であった。そのために、習熟度別クラス編成ではない「Reading 1」、「Writing 1」の授業外学習教材として、学生が自分の英語レベルにあった英語学習ができるように e-learning 教材を導入した。本研究の目的は、授業外学習として行う e-learning 教材のリアリーイングリッシュにおいての学生の実施状況を分析し、未修了者を減らすことである。

3. 研究の背景

e-learning 教材を集団授業で使用した例として、工藤・江連（2018）のリアリーイングリッシュ社の PracticalEnglish450 と TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R を活用した例がある。本研究の授業では、2ヶ月間で TOEIC 模擬テストのスコアが1クラスでは 9.78 ポイント、もう一方のクラスでは 35.18 ポイント上昇したことがわかった。

同じリアリーイングリッシュ社の New Practical English 総合英語コースを授業外教材として使用した柏原（2012）の2ヶ月間の実践においてわかったことは、英語を専門としない学生でも、テストの合格点を 70% に設定し、1年間の学習課題として課すレッスン数を 50 レッスンにしても問題が無いということであった。さらに、修了したレッスンに応じて平常点の加点としたが、積極的に課題を行った学生が 28% だったことがわかった。柏原の実践を参考に本学では、1年間修了レッスン数を 50 にし（半期で 25）、各レッスンの合格点を 70% に設定した。課題に取り組む学生の率を増やすために、修了レッスン数に応じての加点ではなく、英語必修科目の評価の一部（20%）に組み込むことにした。

TOEIC 準拠の e ラーニング教材に取り組んだ 15 週間の学生の学習行動について研究した合田他（2013）によると、学習行動は7つのタイプ（1. 締め切り重視、2. 学習習慣、3. 先行逃げ切り、4. ランダム、5. やる気減退、6. 山型、7. 中盤追い上げ）に分類され、締め切り重視タイプが一番多いことがわかった。このうち 3, 7. 以外の 5 つには課題修了とドロップアウトの 2 タイプがあることがわかった。本研究では、未修了者の学習行動に注目するためにアンケート調査を行い、未

修了者はどのような課題を抱えているかを明らかにし、その課題に対する改善策を示したい。

4. 研究の方法

4.1 研究の流れ

19 年度入学生の 2019 年秋学期および 2020 年春学期のリアリーイングリッシュの実施状況（修了率、学習時間、修了レッスン数、スキル別修了レッスン）と、20 年度入学生の 2020 年春学期の実施状況を管理者用サイトのレポートから概要としてまとめる。2019 年秋学期最終授業日に授業参加者全員を対象に行ったリアリーイングリッシュに関するアンケートもデータとして収集し分析する。アンケートはマイクロソフトフォームズを使用し行った。このアンケートを図 1 に示す。アンケートには、自由記述形式が 4 問、リアリーイングリッシュではどのレッスンを重点的に行ったかを問う質問が 1 問、リアリーイングリッシュを評価する選択形式の質問が 4 問ある。4 問の選択形式の質問には 5 段階の段階評定で回答させた。2019 年秋学期最終授業日にはリアリーイングリッシュでの学習達成度を調べるために授業内でプログレステストを行った。2020 年度の春学期の実施状況レポートで明らかになった未修了者に対して行ったアンケート結果も分析する。このアンケートは選択形式の質問が 1 問と自由記述形式の質問 2 問からなる。そのアンケートを図 3 に示す。

4.2 調査対象

調査の対象とした学生は、国際教養学科に属する 19 年度入学生 145 名および 20 年度入学生 168 名である。2019 年度の秋学期 2019 年 9 月 14 日から 1 月 12 日と 2020 年度の春学期 2020 年 4 月 14 日から 7 月 21 日までの e-learning 教材の実施状況を対象とする。

4.3 Practical English 7 の概要

Practical English 7 は、リアリーイングリッシュ株式会社が開発した TOEIC 対応の総合英語コースである。本教材を選定した理由は、TOEIC 対策ではなく TOEIC 対応であるため、TOEIC だけではなく留学にも対応した内容になっているところである。さらに、完全にスマートフォン対応であることや、リスニング、文法、リーディングという 3 種類のスキルから選択できる機能があることだ。

デモアカウントで利用した際に、すべてのレッスンが学習・演習・テストの 3 段階になっており、段階を踏みながら学習ができるようになっていたことがわかった。さらに、親しみ易い画像や動画を使用し、幅広いトピックをカバーした内容であったため、楽しみながら学習ができそうであることが選定の決め手となった。

本学ではテストの合格の基準として柏原（2012）の研究を参考に正答率を 70％に設定した。さらに TOEIC 対応ということもあり、TOEIC の問題形式エクササイズもあり、学生は自分のレベルに応じたコンテンツを学習することにより、自然に TOEIC 対策が出来るようになっている。

Practical English 7 の内容は授業では扱うことはない。従って、学生は各々の英語力のレベルに応じて異なったレッスンを学習できる。その機能は adaptive focus と呼ばれており、最初に診断テストを受けレベルが決定し、5 レッスンごとに最適なレッスンを提供してくれる。

導入後にわかった利点としては、教員用管理画面から学生の進捗状況が一目にわかるため、授業での声かけが容易にできることである。どのレベルのどの教材をいつどのぐらいの時間で学習したかという詳細なレポートを、担当授業ごとにダウンロードできるところも担当者として使用し易い。

5. 結果と考察

5.1 19 年度入学生および 20 年度入学生の学習状況

19 年度入学生のリアリーイングリッシュの学習状況の概要を表 1 に示す。2020 年からは、本学と同じように 1 年次に留学に行く学生を対象にした佐々木・竹内（2019）のリアリーイングリッシュ実施例を参考にし、3 つのスキルの中で、リスニングを選んで実施するように学生に伝えた。修了率はほぼ変化していないが、平均学習時間が 29 分減少した。リスニングを推奨し、学習時間を長くすることが目的であったが、リアリーイングリッシュの使用が 2 年目となり、短時間で終わらせるコツを身につけたことや、留学を修了した後の学期ということで英語への学習意欲が

表 1：19 年度入学生の学習状況概要

	2019 年秋学期	2020 年春学期
登録者数	145	145
修了者	111	109
未修了者	34	36
修了率	76.5%	75.8%
平均学習時間	4 時間 35 分	3 時間 56 分
推奨レッスン	文法・リーディング・リスニング	リスニング推奨
スキル別修了レッスン割合	の中から学生が選択	
Listening	24.1%	76.2%
Reading	57.1%	15.3%
Grammar	18.7%	8.4%
必修英語授業	対面授業	オンライン授業

低くなったことが学習時間の減少の要因として考えられる。

しかし、全く同じ条件でリアリーイングリッシュに取り組んだ20年度入学生の平均学習時間は7時間22分と19年度入学生の3時間56分より3時間26分長くなった。(表2) 将来留学に行くという目的があること、大学に入学して最初の学期ということもあり、全ての授業がオンラインになったという学習環境においても、積極的に取り組んだことがわかる。

表2：20年度入学生の学習状況概要

2020年春学期	
登録者数	168
修了者	145
未修了者	23
修了率	86.3%
平均学習時間	7時間22分
推奨レッスン	リスニング推奨
スキル別修了レッスン割合	
Listening	72.5%
Reading	18.1%
Grammar	9.3%
必修英語授業	オンライン授業

5.2 リアリーイングリッシュ (Practical English 7) についてのアンケート調査結果

2019年度秋学期授業最終日に行ったリアリーイングリッシュ (Practical English 7) についてのアンケートには、129の回答があった。4問の選択形式の質問には、「そう思う」「思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」で回答させた。このアンケート調査を図1に、Q1からQ4の回答を図2に示す。Q1のリアリーイングリッシュがどのように役立ったかという問いには、「リアリーイングリッシュの内容は短期留学に役立つものだった」には37.2%が「そう思う」31.0%が「少しそう思う」と4問の中で最も高く、リアリーイングリッシュのトピックが短期留学の準備に役立つと感じた学生が7割近くいたことがわかる。

1. Really Englishについて

	そう思う	思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
Really Englishの内容は短期留学に役立つものだった	☐	☐	☐	☐	☐
Really Englishで語彙力が伸びた	☐	☐	☐	☐	☐
Really Englishでリスニング力が伸びた	☐	☐	☐	☐	☐
Really Englishで読解力が伸びた	☐	☐	☐	☐	☐

2. Really Englishではどのレッスンを重点的に行いましたか

- ☐ Listening
- ☐ Reading
- ☐ Grammar

3. Listening、Reading、あるいはGrammarを重点的に行った理由を記述して下さい

回答を入力してください

4. Really Englishの機能で修正や追加してほしいものがあれば記入して下さい。 (例：回答後に解説が見られるようにしてほしい)

回答を入力してください

5. Really Englishで最も興味を持ったテーマを記入して下さい。(例：食事の際に使う表現)

回答を入力してください

6. Really Englishで扱ってほしい内容を記入して下さい。(例：ホストファミリーとの会話)

回答を入力してください

図 1：リアリーイングリッシュについてのアンケート

1. Really Englishについて

詳細

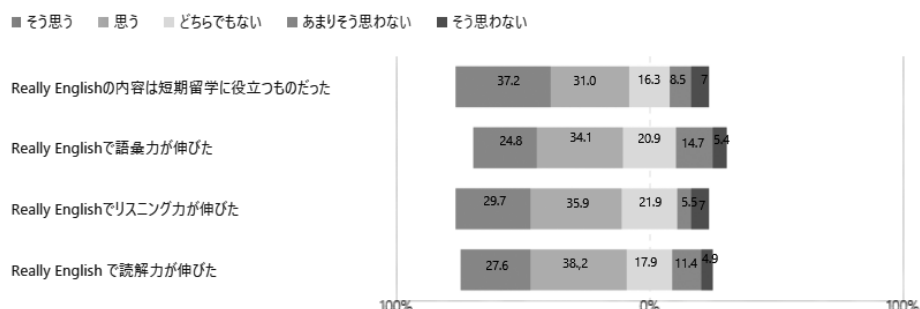


図2：リアルイーイングリッシュについてのアンケート結果

5.2.1 Q3：Listening Reading Grammarの中から重点的に学習したスキルとその理由

2019年度は3つのスキルから学生は自由に自分が学習したいレッスンをその都度選択し、25レッスンを修了していた。そこでどのスキルを重点的に行ったかとその理由を聞いたところ、Listeningが一番多く53%、次にReadingが26%、最後にGrammarの21%となった。しかし表1からもわかるように、実際に修了したレッスン数はReading、Listening、Grammarの順となった。重点的に学習したスキルとその選択理由の多かったものを表3に示す。Reading、Grammarに関しては、苦手分野を克服したいという気持ちからスキルを選択している学生が多い事がわかった。Listeningに関しては、短期留学を目前に控え、現地で困らないためにListeningを選んだ学生が最も多かった。

表3：重点的に学習したスキルと選択した理由

Listening		Reading		Grammar	
68		33		27	
留学のため	17	苦手	7	苦手	9
苦手	15	読解力をつけたい	5	解きやすい	4
リスニング力をつけたい	8	速読力をつけたい	3	文法は大事	3

5.2.2 自由記述回答の結果

「リアルイーイングリッシュの機能で追加して欲しいものがあれば記入して下さい」という問いに対しては、「解説を表示して欲しい」が47名「正答を表示して欲しい」が10名と大半の意見であった。春学期は解説・正答を表示していたが、秋学期には解説・正答の表示をオフの設定にしたため、このような意見が多かった。しかし、結果的に1レッスン合格するまでの学習平均回数は1.87から秋学期は2.01と増え、解説・正答を非表示にした場合、学習回数が増えた。

学生の意見を参考にし、2020年度からは学期中は解説・正答を非表示にし、夏休み・冬休み

期間は解説を見ながら復習ができるような設定にした。少数意見であるが「25 レッスン修了後に確認テストが欲しい」等の意見もあった。この機能については次のプログレステストの章でも述べるが、教員側からも増やして欲しい機能である。

次に「リアリーイングリッシュで最も興味をもったテーマを記入して下さい」という問いには、「空港」26 名、「飛行機」8 名、「食事」5 名、「ホテル」5 名、「旅行」5 名と留学、旅行に関するテーマが上位に挙げられた。「リアリーイングリッシュで扱ってほしい内容を記入して下さい」という問いには、「日常会話」17 名、「ホストファミリーとの会話」15 名、「留学先での会話」6 名、「友達」5 名、「道案内」2 名、「バイト先での会話」2 名とアカデミックな内容よりは、今すぐに使用出来る身近なトピックのニーズが短期留学前ということもあり高かった。オーストラリアに行く学生はホームステイをするため、ホストファミリーとの会話に対するニーズが高かった。

5.3 プログレステストの結果

2019 年度秋学期授業最終日に 50 問からなる選択式のプログレステストを課した。テストの問題形式を以下に示す。リアリーイングリッシュ株式会社が提供しているプログレステスト 5 を使用した。プログレステスト 5 はレベル 3 に対応した内容であった。136 名がテストを受け、50 点中平均点は 33.2 となり、66.4% の正答率であった。春学期に行ったレベル 2 に対応したプログレステスト 4 の平均点は 36.6 で、73.2% の正答率であった。

秋学期のプログレステストの正答率が春より低かった理由は、レベルが上がり春学期のテストより難易度が高かったこと、秋学期の修了レッスンのレベル別内訳が、レベル 2 が 51.6%、レベル 3 が 36.9% レベル 4 が 11.1% とレベル 3 のレッスンを修了していない学生が半数以上存在したことが要因であると考えられる。

学生は自分の英語力にあったレッスンを学習したが、プログレステストはレベル別になっており、個々の学生にあったものではなく、今後は個々が修了したレッスンの内容をカバーするまとめテストがあれば、リアリーイングリッシュで学習した内容が定着しているかを判断する材料になると思われる。

1. Excuse me. _____ the Europa Hotel?

- a. Can you help me
- b. How do I get to
- c. Where do I go to

5.4 未修了者の学習達成率について

19 年度入学生の 2019 年秋学期の未修了者は 34 名（修了率 76.5%）、2020 年春学期の未修了者は 36 名（修了率 75.8%）だった。20 年度入学生の 2020 年春学期の未修了者は 23 名（修了率 86.3%）であった。（表 1,2）各学期の未修了者の学習達成率を表 4 に示す。

表 4：未修了者の達成率

達成率	19年度入学生		20年度入学生
	2019年秋学期	2020年春学期	2020年春学期
0	0	10	7
1-20%	4	5	2
21-40%	2	7	4
41-60%	7	4	0
61-80%	7	1	6
81-100%	14	9	4
計	34	36	23

2019 年秋学期はレッスン修了数が 0 の学生は 1 名もいなかったが、2020 年春学期は、0 の学生が計 17 名いた。対面授業が無かったために、教員からの指導が難しかったことが理由として考えられる。未修了者の学習行動を調べるために、学習履歴を見ると 2019 年秋学期の未修了者 34 名のうち 29 名（85.2%）が最終週にログインし、レッスンを学習していた。このような状況から、計画的に学習が進んでいなかったことが推測される。

5.5 未修了者のへのアンケート結果

2020 年春学期未修了者 57 名（休学・退学者を除く）に対して、未修了の理由を調べるために、夏期休業期間中にマイクロソフトフォームズで、アンケート調査をメールで送信したところ、19 名から回答があった。そのアンケートを図 3 に示す。回答のあった 19 名のうち 12 名は修了率が 60-90% 台であったため、比較的学習が進んでいた学生から回答があったと思われる。

1. 春学期はReallyEnglishを25レッスン終えることができませんでした。その理由を以下から選んで下さい。複数選んでもかまいません。

- ☐ 計画的にできなかった
- ☐ 内容が難しかった
- ☐ 内容が興味を持てるものではなかった
- ☐ wifiなどの通信環境の問題があった
- ☐ ログインなどの操作がわからなかった

2. 上記を選んだ理由を詳しく書いて下さい。

例：他の授業の課題も多かったため、締め切りに間に合わなかった。
また上記以外の理由があれば書いて下さい。 *

回答を入力してください

3. 秋学期はReallyEnglishを25レッスン終えるために、どのように改善しようと思いますか *

回答を入力してください

図3：未修了者に対するアンケート

1. 春学期はReallyEnglishを25レッスン終えることができませんでした。その理由を以下から選んで下さい。複数選んでもかまいません。

詳細

- 計画的にできなかった 11
- 内容が難しかった 5
- 内容が興味を持てるものではなか... 4
- wifiなどの通信環境の問題があった 3
- ログインなどの操作がわからなかった 1

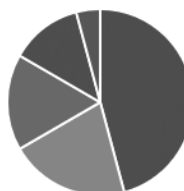


図4：未修了者に対するアンケートのQ1の結果

1の問いに対しては19名のうち11名が「計画的にできなかった」を選び最も多く、未修了の主な原因であると考えられる（図4）。計画的にできなかった理由の記述は、「計画的にできず、最終日に一気にやろうと思ったけど結局時間内にできなかった。」「なんとも同じミスをして、自分が思っている以上に計画的に出来なかった。」その他の理由として「内容が難しかった」を5名、「内容が興味をもてるものではなかった」を4名、「Wi-Fiなどの通信環境の問題があった」を選

択したものが3名いた。「内容が興味をもてるものではなかった」と答えた4人は全員19年度入学生（2年生）であり、2年間同じ教材を使用しているために、内容や出題パターンに飽きてしまった可能性がある。

「ログインなどの操作がわからなかった」を選んだ1名の学生はこの選択肢を選んだ理由として「パソコンの操作が苦手」と記述し、秋学期の改善点は「対面授業にする」と書いてあり、秋学期は対面授業が行われるため、ログインや操作方法などは実際に教員が指導することができるため、学習行動が改善されることが予測される。

秋学期に向けた改善点として学生が記述している内容は、「一日にするレッスン量を決めて計画的にする。」「週に2レッスンずつなど、計画を立てて取り組んでいく。」「きちんと計画を立ててスケジュールアプリなどに設定して通知できるようにしようと思います。」等スケジュールリングに関する記述が多かった。

5.6 19年度入学生と20年度入学生のTOEICの平均点

19年度入学生と20年度入学生のTOEICの平均点を表5,6に示す。19年度入学生は、2019年の秋学期期間中に11.5ポイント、2020年は春学期中に3.6しか上がっていなかったが、短期留学前と留学後はペーパー版とオンライン版のTOEICの比較になるが、75.4ポイント上昇しており、留学の効果がTOEICスコアアップに影響したことがわかる。

表5：19年度入学生のTOEIC平均点

	2019年7月	2019年12月	2020年3月末	2020年7月
n	146	137	135	132
平均点	375.5	387.0	462.4	466
平均点の差		11.5	74.5	3.6

* 2020年3月末、7月はオンライン版TOEICを受検

20年度入学生の場合は、TOEIC Bridge とオンライン版 TOEIC の比較になるが、全授業オンラインで行われたにもかかわらず63.9ポイント上昇した。リアリーイングリッシュがTOEIC対応の内容でもあり、19年度入学生と比べ、リアリーイングリッシュの学習時間も長かったことから、e-learning 教材リアリーイングリッシュの導入がTOEICスコアアップに一定の効果があったと思われる。今後は各学生のTOEICスコアの伸びとリアリーイングリッシュの学習時間との関係进行分析していく必要がある。

表 6：20 年度入学生の TOEIC 平均点

	2020年4月	2020年7月	平均点の差
n	126	159	
平均点	365	428.9	63.9

* 2020年4月はTOEIC Bridge受検の為TOEICスコアに換算

* 2020年7月はオンライン版TOEICを受検

6. 課 題

2019 年秋学期と 2020 年春学期のリアリーイングリッシュの修了率はどの学年でも 75%以上と高く、リアリーイングリッシュは本学科の学生に適した e-learning 教材であると言える。しかし未修了者が一定数いることは事実である。すでに授業での声掛けや、25 レッスンを修了するためのスケジュールを示すなどの対策は行っているが、計画的に学習することが難しい未修了者のために、それ以外の方策を新たに考えることが課題である。2020 年度秋学期は英語必修科目で対面授業が再開されたため、教員からのみではなく学生同士で助け合える仕組みなどを作ることが必要である。さらに家庭や授業外で学習時間を確保しにくい学生に関しては必修授業の間にあるコミュニケーションアワーの 30 分をリアリーイングリッシュの学習時間として活用することも有効であると思われる。本研究は、未修了者に注目した研究にもかかわらず、学習達成率が低い学生からのアンケートの回答が少なく、彼らが抱える困難点をこれからも継続して解明していく必要がある。

他大学ではすでに必修英語再履修クラスなどで e-learning 教材の活用が行われている。本学でも今後必修英語再履修クラスで e-learning 教材を導入する予定であるが、その場合は教材選択、オリエンテーションの内容や授業期間内の効果的な指導方法を提案することが必要となってくる。

最後に、2020 年春学期は本学では、急遽、全授業が準備期間もほぼなく非対面のオンライン授業になり、すべての授業において急な対応が迫られた。しかし前年度から導入していたリアリーイングリッシュのような e-learning 教材に関しては変更をする必要がなかった。今後の予測不可能な時代には、オンライン、オンデマンド、ハイブリッド、ハイフレックスなど今までに無かった多様な授業形態に対応していくため、e-learning 教材の需要は高まるものと考えられる。それに伴った e-learning 教材を使用する際に未修了者を少なくするための授業内外での適切なフィードバックについて検討を続けていきたい。

参考文献

- 合田美子・山田政寛・松田岳士・加藤浩・齋藤裕・宮川裕之（2013）.「eラーニングにおける学習行動の分類」『日本教育工学会第29回全国大会論文集』867-868.
- 柏原郁子.（2012）.「e-Learning 教材 reallyenglish の活用事例 :TOEIC のスコアアップを目指して」『関西大学 外国語教育フォーラム』11, 15-30.
- 工藤俊, 江連成美. (2018).「E-learning 英語教育の実践報告」『駒沢女子大学 研究紀要』25,165-175.
- 佐々木 顕彦・竹内 理（2019）.「日本人大学生の e-Learning 学習行動と自己調整学習の関係」『全国英語教育学会第45回弘前研究大会 発表予稿集』50-51.